

夜叉ヶ池

岐阜県には竜神様が棲むという夜叉ヶ池がある。その昔、水不足に困った安八某が水田に水を引いてくれた者には娘をやると約束したところ、若者に化身した竜神が水田に水を満たして、その娘を連れて山の尾根にある池に去ったそう。その池は一年中水量も変わらないそうだ。

そんな話を聞いて是非とも行ってみたいと思い立ち、ある年の初秋に出かけることにした。坂内村のはずれに登山口があり、そこまでは車で行けるが、そこからは結構なのぼり道である。小川のせせらぎに沿って、雑木林を縫うように登山のための遊歩道が出来ている。山の景色は何処も美しい。喉の渇きを癒してくれる湧き水が滝となって流れている。突然目の前に険しい夜叉壁が出てくる。この壁を超えていかねばならぬ。ただ黙々と、時にはロープの助けを借りて歩いていく。だんだん尾根に近づいていく。

小鳥のさえずりも最初の頃は聞こえていたが、歩き進むうちに物音もしなくなる。この静けさは何なのだろうか。どうして鳥の声も聞こえないのだろうかと気になる。歩き始めて一時間半ばかりで尾根についた。尾根は広広としていてその真中に夜叉ヶ池があった。

透けるように澄んだエメラルド色の水は風のいたずらで時々漣が寄る。不思議な光景である。どうして山の上にこんな池があるのだろうか。池は浅いのに枯れることも増水することもなく、いつも一定の水量を維持していると伝え聞いた。途中の雑木林は色付き紅葉していたのに、池の周りは既に落葉し、美しい裸木が林立している。池の底には小石が敷き詰められて、漣が寄せる度にキラキラと輝いている。苦勞して登ってきた甲斐があった。なんと美しいのだろう。昼食のおにぎりを食べながら池の水面を眺めていると、とっても幸せな気分がみなぎってきた。

山に登る人たちの気持ちがわかった日であった。

平成二十一年 鈴木 敦子